

6 生徒指導推進計画

(1) 生徒指導推進計画

学校教育目標

「夢をはぐくみ 自ら考え学び 共に伸びる 八重東っ子の育成」

自分で学ぶ みんなで伸びる

児童の実態

- ・元気で明るく、意欲をもってがんばろうとする児童が多い。自己肯定感の高い児童が多いが、自分に自信のもてない児童もいる。
- ・規範意識が低く、ルールが定着しにくい児童や、相手の気持ちを考えない言動を繰り返し、人間関係がうまく築けない児童がいる。
- ・基本的生活習慣が構築できず、忘れものが多い、欠席が続く等、学習や人間関係に支障をきたす児童もいる。

㊦さしい心と ㊧がおで ㊨とといっしょに ㊩がんばって ㊪あわせになろう

本校でつきたい資質・能力

★コミュニケーション能力 (協働性)

★自ら取り組む力 (主体性)

具体的な取組み

○サポートチームの組織

- ・課題を持つ児童への見通しをもった取組
- ・職員の共通理解 (児童理解暮会など)
- ・報告、連絡、相談

○家庭・地域との連携

- ・保護者との共通理解
- ・家庭での生活習慣の見直し
- ・地域の方の協力

○専門機関との連携・研修

- ・中学校との連携 (町内ブロック会)
- ・教育相談委員会
- ・校内委員会 (特別支援教育推進) との連携
- ・警察・児童家庭センター等との連携

組織的な生徒指導体制による指導

○基本的な生活習慣・学習規律の確立

- ・挨拶、返事、掃除等日常指導の徹底
- ・学習ルールの指導 (教務部との連携)
- ・授業や生活の中での肯定的な評価
- ・三点固定の取組 (保健指導部との連携)
- ・保護者との連携

○問題行動の未然防止と迅速な対応

- <支える・積極的な生徒指導>
- ・校門指導・校内巡回と声かけ
 - ・校内放送での呼びかけ
 - ・今の気持ちアンケートの実施
 - ・いじめアンケートの実施
 - ・早期発見と早期対応 (日常的な情報交換 迅速な報告・連絡・相談)
 - ・全校指導 (非行防止教室等)
 - ・警察・児童家庭センター等との連携

○道徳的諸価値の理解に基づく生徒指導

- ・人間理解
なかなか実現できない人としての弱さがあることも受け入れる。
- ・他者理解
多様な考え方があることを受け入れ、お互いに理解し合う。
- ・価値理解
人として、よりよく生きる上で大切なことを理解する。

○自己指導能力の育成

<生徒指導の四機能を生かして>

- ・自己決定の場を与える
- ・自己存在感を与える
- ・共感的人間関係を育成する
- ・安心・安全な居場所づくり

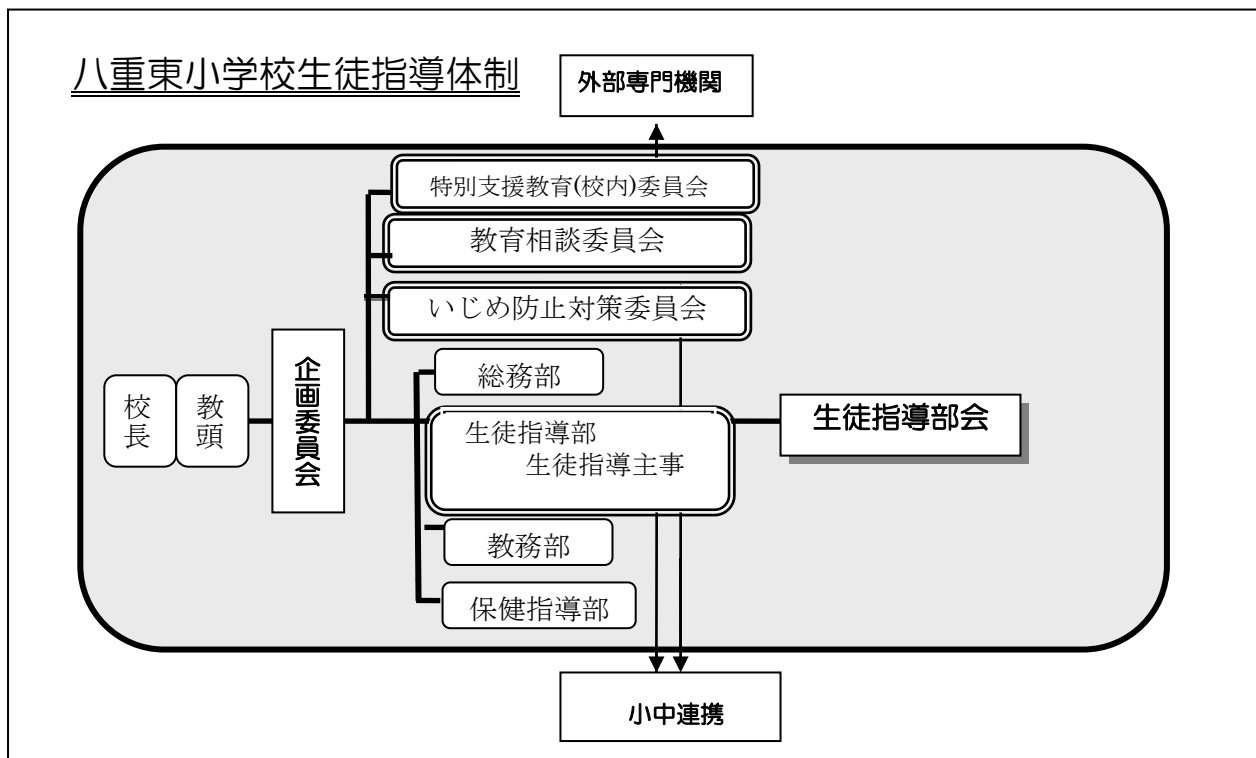
○規範意識の向上と耐性を身につける生活指導

- ・「生徒指導規程」「学校生活のきまり」に則したぶれない指導
- ・特別な指導の充実
- ・3つの約束 (挨拶・時間・掃除) 生活目標
- ・高学年や通学班長に責任感をもたせる
- ・学校生活以外の生活指導
- ・豊かな心の育成 (学級指導・道徳の時間・ソーシャルスキル・ほめほめカード・行事振り返りカード)
- ・児童会活動等の活用
- ・警察等との連携
- ・保護者との連携

安心してすごせる学校・学級づくり

(2) 生徒指導の充実

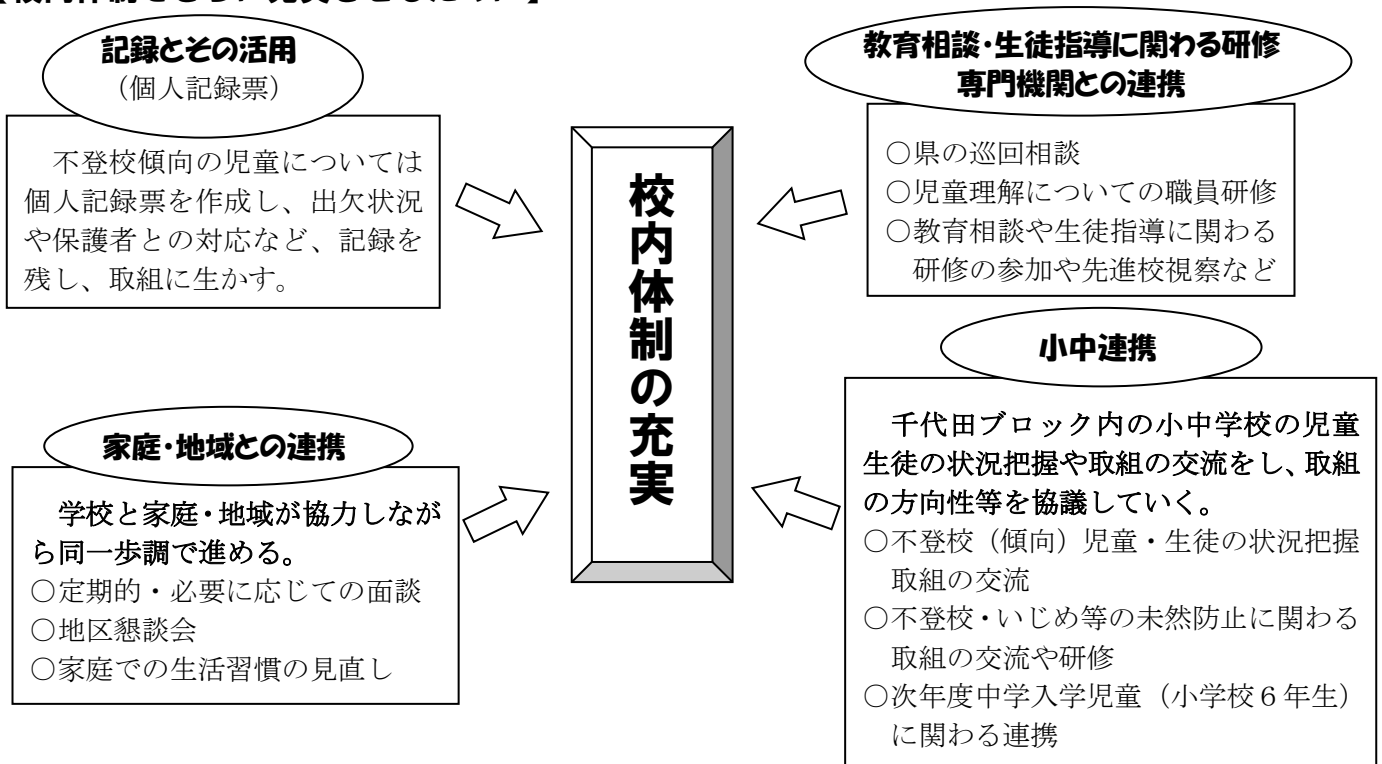
① 組織的な生徒指導体制による指導



【校内組織】 サポートチームの組織（報告・連絡・相談）

- 教育相談委員会（月1回）…管理職・生徒指導主事・養護教諭・該当児童の担任等
- いじめ防止対策委員会（月1回）…管理職・生徒指導主事・養護教諭・該当児童の担任等
- 特別支援教育(校内)委員会（年4回）…管理職・特別支援教育コーディネーター・該当児童の担任・養護教諭
- 暮会（毎週月・水・金のどこか）での配慮を要する児童・気になる児童について交流・共通認識

【校内体制をさらに充実させるために】



② 基本的な生活習慣・学習規律の確立

- 挨拶・返事・掃除など日常的な指導を徹底する。
 - ・「はいっ」の返事を大切に
 - ・挨拶が響きあう学校に（あいさつは誰もがすぐにできるコミュニケーションの手段）
 - ・「時間いっぱい掃除」「だまって掃除」「すみずみまで掃除」を目標に位置づける。
- 学習規律を確立する。（「八重東型学習モデル」の徹底、ユニバーサルデザインの授業づくり）
- 人と関わる力を高める取組を重ねる。
 - ・職員室の出入りの指導（立ち止まって「失礼します」「失礼しました」「〇〇の用事で来ました」）
→職員もきちんと答える
 - ・定期的に SST を実施し、児童の人との関わり方の理解・レジリエンス力を深める。
- 保護者との連携を進め、児童の基本的な生活習慣が定着するようにする。

③ 自己指導能力の育成

- 生徒指導の四機能を生かした授業づくり・集団づくり

- ・ **自己決定の場を与える。**
…児童が決められたルールを守り、自分自身で責任が取れる範囲内で、自らが行動を選択し、その行動に責任をとる機会を与える。
- ・ **自己存在感を与える。**
…児童一人一人は、かけがえのない存在であり、一人一人の存在を大切にする指導を行う。自己存在感は他者との関わりの中で見出されることもあり、望ましい集団づくりが重要である。
- ・ **共感的人間関係を育成する。**
…教職員と児童および児童同士が、相互に尊重し共感的に理解しあう人間関係を育成する。
<各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動・学級行事・学校行事等を通して育てる。>
- ・ **安全・安心な居場所づくり**
…児童の個性が尊重され、学級が児童の「心の居場所」になるようにする。

- 自信や自己肯定感を高める取組を重ねる。
 - ・一人一人に活躍の場・役割を果たす場をつくる（学校行事・各委員会・クラブ・係活動など）
※活躍の場・役割を果たす場 → やりきらせる → 肯定的な評価（しっかりほめる）
 - ・帰りの会で一日を振り返り、がんばったことやうれしかったことなどを出し合うことで、学級の所属感や自己肯定感を高めることにつなげていく。
 - ・種々の活躍や努力を全校で表彰し、自己存在感・自己肯定感を高める。
 - ・ほめほめカードの取組や SST を通して、友達のいいところを見付けたり、いいところを認め合ったりして、児童の自己有用感につなげる。

④ 問題行動の未然防止と迅速な対応（支える生徒指導）

- 職員が意識してどの児童にも声かけをする。
- アンケートや学級指導、道徳の授業を通して未然防止や学級経営に生かす。
 - ・学校全体の取組の参考にする（児童の実態把握）
 - ・アンケート→自己肯定感・人との関わりの中での意識・学習に対する意識などを把握
- 個人面談の実施
 - ・アンケートをもとに一人一人面談し、日頃言葉では伝えられない児童の思いをつかむ。
 - ・悩みや問題を抱えている児童の早期発見に努める。
- 警察・こども家庭センター等の専門機関との連携により、問題行動の未然防止を図り、迅速な対応を行う。

⑤ 規範意識の向上と耐性を身につける生活指導

- 学校生活の指導方針を統一する。（同一歩調でブレない指導）
 - ・職員間の指導のズレを防ぎ、児童たちに不公平感や不満を持たせない。
- ルールを守り、やる気が持て安心して力が発揮できる学校づくり
 - ・八重東の合言葉・生活目標を全校のみんなが意識しがんばることで、お互いが約束を大切にして安心して学校生活を送ることができる。→児童会本部を中心に
 - ・がんばりを全体の場で肯定的評価をする。（あいさつ・掃除）
 - ・八重東小学校生徒指導規程に基づく「学校生活のきまり」を絶えず意識させる→全校指導
- 学校生活以外の生活指導（交通立ち番や一斉下校指導など）
- 高学年や通学班長、縦割り班長に責任感を持たせる。（リーダーの育成）
- 保護者・地域との連携や警察等との連携を通して、規範意識を身につけさせる。